

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2016

課題番号：25300035

研究課題名(和文)慰安婦の生きた日本占領下インドネシアの社会史

研究課題名(英文)A History of Indonesian Society in which Comfort Women Lived

研究代表者

Horton William. B (Horton, William B.)

早稲田大学・付置研究所・その他

研究者番号：00625262

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,100,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは1942-45年日本占領下インドネシアにおいて慰安婦が置かれた社会的文脈を、都市数地域を焦点に探求した。相当量の史資料を収集し、保健医療分野を含めた様々な活動を検討することにより、戦時中の出来事や経験を理解する具体的基礎を提供している。日伊に跨る個人的・専門的人脈の重要性が明らかになり、幾つかの新プロジェクトが派生した。

助成期間(2013-17)に、国際シンポジウムを二度、国際ワークショップを一度、九州での地域シンポジウムを一度開催、国際学会パネル発表を三度行なった。個別論文に加え、分担者と海外の研究者の研究成果を論文集としてまとめ、近く出版される予定である。

研究成果の概要(英文)：This project sought to explore the social context of comfort women in Indonesia during the Japanese occupation of 1942-45, focusing in particular on urban areas. By collecting substantial source materials and examining various fields of activities within Indonesia, including a range of medical related issues, this project has begun to provide a concrete basis for understanding wartime events and experiences. The importance of the personal and professional networks involving Japanese and Indonesians has also become apparent, and a new research project has been born out of this project.

During the extended grant period (2013-2017), project members organized 2 international symposia, one international workshop, a regional symposium in Kyushu, and 3 international conference panels. Some research results have been published as separate papers, but a special volume of studies by project members and affiliated foreign researchers is being completed and will be published soon.

研究分野：アジア史・アフリカ史

キーワード：慰安婦 日本占領期インドネシア インドネシア社会史 医学史 日・伊外交史 海外日本人社会 第二次世界大戦 地方からの南方関与 第

1. 研究開始当初の背景

(1)国内外の慰安婦に関する研究動向と本研究の位置づけ

1990年慰安婦の歴史が政治の表舞台に登場して以来、慰安婦に関して数多くの研究が発表されてきた。しかしそのほとんどは、強制連行の検証(Coomaraswamy, Radhika 1996、秦郁彦 1996、櫻村、村岡、勝谷『慰安婦強制連行』2008)、元慰安婦の記憶(C. Sarah Soh『The Comfort Women』2008)、戦争責任や補償研究(高木建一『従軍慰安婦と戦後補償』1992)、慰安婦に関する公文書や史料の紹介(吉見義明『従軍慰安婦資料集』1992、Poelgeest, Bart van “Gedwongen Prostitutie van Nederlandse Vrouwen in Voormalig Nederlands-Indie”〔日本占領下インドネシアにおけるオランダ人女性強制売春〕1993)あるいは慰安婦の経験を記述(Hicks, George『Comfort Women』1994、吉見義明『従軍慰安婦』1995、Tanaka Yuki『Japan's Comfort Women』2001)というものに留まっていた。これら研究は慰安婦個人に着目するあまり、彼女たちの生活したかつての社会・政治状況や文化と現在との違いや時間的変化を検討しさえせず、あたかも慰安婦が地理的空間と時間軸を超えて同様の経験を共有しているかのような印象さえ生み出していた。このような慰安婦に関わる研究手法は、歴史学を始め、社会学・人類学、ジェンダー学の研究の中では極めて特殊であり、結果、慰安婦の過去は歴史や社会から断絶され不透明な部分を多く残してしまっただけではなく、慰安婦研究の信憑性さえ危うくするとともに、容易に政治的言説に組み込まれてしまう原因となっていた。「慰安婦が生きた社会史」という本研究の主題は、歴史や社会から断絶され、「政治化」された慰安婦を、その時代や社会に再編成し、人類学の包括的アプローチを採用することで、当時の社会状況ひいては社会心理の中で慰安婦がどのような立場に置かれていたかを詳らかにすることを目指していた。

(2)本研究の着想に至った経緯

本研究の研究手法として、過去20年の政治化された慰安婦言説の影響を受けやすいオーラルヒストリーに依拠する研究ではなく可能な限り文書主義を貫くこと前提とした。戦中或いは戦後間もない頃の慰安婦に関する資料、特に慰安婦自身の証言文書に関しては、殆どないと言われ、文書主義的歴史再構築はあまり進んでいなかったのだが、インドネシアに関しては、必ずしもこのことが必ずしも当てはまらない。BC級戦犯裁判のオランダ臨時法廷は、当時としては珍しく強制売春罪があり、売春に関する聞き取り調査を数多く残しており、1993年オランダ政府高官Bart van Poelgeestがオランダ政府第二議会に提出した報告書からもその量の多

さは知られている。また、申請代表者は、1999年にオランダの三公文書館(NIOD:オランダ戦争資料研究所、ARA:オランダ国立公文書館およびMinistry of Foreign Affairs:外務省外交資料室)調査の結果を、本研究協力者山本まゆみと共に発表した「日本占領下インドネシアにおける慰安婦:オランダ公文書館調査報告」で、その一部詳細を紹介している。これら2つの調査結果から、公文資料の多くはジャワ島、中でもジャカルタ、スラバヤ、バンドゥン、スマランといった都市に集中していることが判明した。これは、ジャワ島がオランダ軍戦後再上陸の最初の地域であったこと、ジャワ都市部に関しては戦前からオランダ人の人口が多かったこと、さらにジャカルタは日本の第16軍軍政監部があったことから連合軍の警戒が強かったことも要因と考えられた。故に、本研究において文書主義を採用しても、資料の質・量の双方を鑑み、ジャワ島の4都市部に焦点をあてることで慰安婦の生きた社会史を記述することが可能であるという考えに至った。

本研究の着想は、研究協力者が発表した“Misplacing the Sakura Club in Postwar Colonial Imagination”(山本 2011)と“Whispers and Gazes: A Postscript to the Semarang Comfort Women Incident”(2012)に起因していた。前者は、ジャカルタの慰安所桜倶楽部の経営者の生活を戦前から描き、また後者は、印欧人やオランダ夫人を収容所から連行し慰安婦にした「スマラン慰安婦事件」を扱いながらも、事件の部分ではなく事件後の慰安婦と慰安婦の家族の生活と心理状況の変化を詳らかにした論文であり、これらは慰安婦のケースでありながら慰安婦から焦点をずらし論述することで、刻々状況が変わる当時の人々の不安定な生活環境とそこに生きる慰安婦と家族の人間関係を描いている。この研究方法から発展した本研究は、都市というより大きな枠組みを採りつつも、日本軍政期インドネシアの政治・経済の変化に伴う人々の生活の変化を時代とともに追うことで、文書に書かれた慰安婦の生活状況と社会環境を理解し、新たな社会史を再構築することが可能になると考えられた。さらに研究対象時期に関しても、前述の“Misplacing the Sakura Club...”や2008年申請者が発表した“Comfort Women in Indonesia: A Consideration of the Prewar Socio-legal context in Indonesia and Japan”(Horton)において試みられたように、インドネシアとオランダが独立をめぐる対峙する戦後の混乱期にまで広げることで、インドネシア社会の変化と継続性を慰安婦に関する歴史研究に組込むことを企図している。これによって、国民国家の再編成が起こった当時、日本軍・日本人と近い関係にあったと思われがちであった慰安婦たちに向けられた社会からの視線や社会の雰囲気を理解すること、更にまさにその中で作成された

公文書の行間の意味を読み解くことが可能になると考えられた。本研究の分担者らは、日本占領期の軍政(後藤)、経済・文化史(倉沢)と当時の社会に精通しており、都市の歴史と慰安婦についての社会状況を綿密に再構築していく研究のアイデアに発展した。

2. 研究の目的

- (1) 慰安婦に関する公文書、特にオランダ BC 級戦犯裁判記録及び戦後連合国人やインドネシア人を裁いた東インド軍法会議文書を発掘・精査し、特に人間関係また社会環境に注目して文書理解を深める。
- (2) ジャワ 4 都市の戦前、戦中、戦後を通じた都市空間の変化と継続性を明らかにする地図やその他の視覚資料を収集する。
- (3) 日本占領下の市民に関わる法律および規則と社会への影響を明らかにする。
- (4) 戦後インドネシアの独立戦争と引き揚げの混乱について、特に戦争裁判の被疑者とされる日本人、日本人引き揚げ者、独立戦争に身を投じるインドネシア人と日本人、オランダ側に付くインドネシア人、また生まれ故郷東インドを離れ、本国或いは第 3 国へ引き揚げるオランダ人の状況を解明する。中でも、戦時中日本人に加担したと思われ裏切り者と揶揄されたオランダ人、裁判にかけられた印欧人についても精査し疑念と疑惑の当時の社会心理を明らかにしていく。

3. 研究の方法

3 年間に渡る本研究は、公文書館及び史料調査収集と分析が主となる。資・史料分析後地理的状况検証のためインドネシアでのフィールド・ワークを行う。概略は以下のとおりである。

- (1) インドネシアにおける慰安婦の状況を総括的に理解すべく、公文書を悉皆調査収集及び分析を行う。
 - (2) 第 2 次世界大戦前及び戦後の、ジャワの買春に関わる法律及び都市部における実情の史料調査を、当時のオランダ東インド及びオランダ国内新聞を中心に収集。また、当時のジャワ都市の社会状況を知るべく、史資料調査、特に詳細地図及び電話帳の収集および地域の特徴分析。
 - (3) 東インドから本国へ引き揚げたオランダ人に対する聞き取り記録の収集分析を行う。
 - (4) オランダ国立戦争史料研究所所蔵、日本人の戦中の日記調査収集。
- (1)~(4)の内容と申請者の今までの研究結果を突き合わせて、慰安婦が生活していた日本占領下インドネシア社会史を構築する。

4. 研究成果

(1) シンポジウム等

助成期間(2013~17)に、国際シンポジウムを二度、国際ワークショップを一度、九州での地域シンポジウムを一度開催、国際学会パネル発表を三度行なった。

国際シンポジウム

2015 年 12 月 6 日に国際シンポジウム Social History of Indonesia during the Japanese Occupation (日本占領期インドネシアの社会史)を国際文化会館(東京都・港区)にて開催した。発表者および発表タイトルは以下の通りである。

- ◆ Yamazaki Isao (Saga Univ.) “How Bridgestone survived the war: A focus on Wartime Business Operations in Java” (ブリジストンは如何に戦争を生き抜いたか? :戦時中のジャワにおける操業に焦点を当てて)
- ◆ Kochi Kaoru (Aichi Prov. Univ.) “The Social Landscape of Java through Cinema and Entertainment under the Japanese Occupation” (日本占領下における映画と娯楽から見るジャワの社会景観)
- ◆ Yamamoto Mayumi (Miyagi Univ.) “Dangerous Liaisons: On Ladies and Laddies in Jakarta” (危険な接触:ジャカルタの青年男女について)
- ◆ Kurasawa Aiko (Keio Univ.) “A Story of a Stateless Woman in Indonesia and the Greater East Asian War” (インドネシアにおける無国籍女性と大東亜戦争)
- ◆ Eveline Buchheim (NIOD/Miyagi Univ. JSPS Fellow) “Dutch-Japanese connections on the ground: Navigating everyday life under the Japanese occupation of Indonesia” (地上におけるオランダ・日本間の接触:日本占領下インドネシアにおける日常の指針)
- ◆ William Bradley Horton (Waseda Univ.) “Forgotten Wartime Travelers and Invisible Employees: Japanese Women in Indonesia, 1942-45” (忘却された戦時の旅行者と隠れた被雇用者:インドネシアの日本女性、1942~45年)
- ◆ Michael Montesano (ICEAS-Yusof Isyak Institute) コメンテーター

2016 年 10 月 4 日には、政策大学院大学(東京都・港区)にて、国際シンポジウム Medicine Talks (II): Perceiving Society and Individuals from the Japanese Occupation to Independent Indonesia (医療は語る(II):日本占領期から独立期にかけての社会と個人を了解する)を開催し、第二次世界大戦以降のインドネシアにおける社会と医療についての議論を行なった。モデレーターは政策大学院大学の Jafar Suryomengolo 氏、

発表者と発表タイトルは以下の通りである。

- ◆ Hans Pols (Sydney Univ.) Keynote “Collaboration, Opportunism, and Resistance: Indonesian Physicians during the Japanese Occupation” (協力、迎合、抵抗：日本占領下のインドネシア人医師)
- ◆ Mayumi Yamamoto (Miyagi Univ.) “Men, ‘Do not Approach the Dangerous!’: Life in Java from Medical Reports and Living Guidebooks” (男たちよ、「危険なものに近付くなかれ！」：医学報告および生活ガイドブックから見たジャワの生活)
- ◆ William Bradley Horton (Waseda Univ.) “From Shadow Work to the Front Line: Japanese Nurses in Indonesia under Japanese Military Administration” (縁の下の力持ちから前線へ：日本軍政下のインドネシアにおける日本人看護婦)
- ◆ Yamazaki Isao (Saga Univ.) “Kurume-Jakarta-Palembang: Adventurous wartime explorations of Bridgestone and the Kurume Medical School” (久留米-ジャカルターパレンバン：ブリジストンと久留米医科大学の大胆は戦時進出)

2017年1月21日には、佐賀県立九州陶磁文化館においてミニ・地域シンポジウム「佐賀・九州から見た近代日本の南方関与」を開催、体調不良で欠席した分担者後藤の基調講演は小野野八光(愛知県大)が代読、山崎功の司会のもと、ウィリアム・ホートン、山本まゆみ、高地薫によって発展的議論が行なわれ、太平洋戦争以前から戦中における南洋進出において、日本の地方における人脈が重要な役割を果たしたことが確認され、新たな研究課題が得られた。

本プロジェクトの成果を発表する機会として、三つの国際学会でパネルを組んだ。以下がパネル・タイトルと学会の詳細である。

- ◆ “Re-painting the Japanese Occupation: Women and the Second World War in Indonesia,”(日本占領を再び描く：インドネシアにおける女性と第二次世界大戦), International Convention of Asian Scholars, 2013年06月24日, Macau (China).
- ◆ “Between the Killings: Unveiling Problems of the Cold War in Indonesia”(虐殺と虐殺の間で：インドネシアにおける冷戦問題を再考する), Association for Asian Studies, 2015年3月27日, Chicago (United States).
- ◆ “Medicine Talks: Perceiving Society and Individuals in Japanese Occupied Singapore and Indonesia” (医療は語る：日本占領下のシンガポールとインドネシアにおける社会と個人を了解する)

AAS-in-Asia 2016, 2016年06月26日, 同志社大学(京都府・京都市).

また、2017年08月16~18日にイギリス、オックスフォード大学で開催されるEuroSEAS(国際学会)においても、パネルにて研究成果を発表する。

(2) 論文、書籍

次項に挙げた個別論文に加え、分担者と海外の研究者の研究成果を論文集としてまとめ、近く出版される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

1. Yamamoto, Mayumi, “Heritage and Diplomacy: A Cultural Approach to UNESCO’s Document Registry Program in East Asia,” 『文化人類学年報』11(2016)、7-20頁、査読無。
2. Horton, William Bradley, “Report on Research Related to the Comfort Women Issue,” WOJUSS Report, 3(2015), pp.3-10, 査読なし。
3. Horton, William Bradley, “Tales of a Wartime Vagabond: Hayashi Fumiko and the travels of Japanese writers in early wartime Southeast Asia”, *Jaarboek voor Vrouwengeschiedenis*, 34(2014), pp. 37-49, 査読有。
4. Yamamoto, Mayumi, “Hidden Sexualities and Secrecy of Prestige: The Development of Military Prostitution in Borneo” 『早稲田大学文学学術院文化人類学年報』9(2014)、1-9頁、査読なし。

[学会発表](計 24件)

1. Yamamoto, Mayumi, “Adapting to the Tropics: Japanese Medical Surveys and Practical Handbooks in Wartime Java”, EuroSEAS(国際学会), 2017年08月16~18日, Oxford University (United Kingdom).
2. Horton, William Bradley, “Health for Indonesians: Public activities of Japanese medical practitioners and public health efforts through Indonesian print materials”, EuroSEAS(国際学会), 2017年08月16~18日, Oxford University (United Kingdom).
3. Yamazaki, Isao, “Local Doctors Go South: Wartime survival & postwar expansion of the Kyushu Medical school”, EuroSEAS(国際学会), 2017年08月16~18日, Oxford University (United Kingdom).

4. Horton, William Bradley, "Patjar Koenig and the mysterious death of Moh. Hoesni Thamrin: A detective's exploration of the swirling maelstrom of Indonesia in the early 1940s", All Lows, No Highs: A Comparative study of Indonesian and Malaysian Crime Fiction(招待講演)(国際学会), 2017年05月29~31日, Monash University, Sunway Campus, Kuala Lumpur (Malaysia).
5. Horton, William Bradley, "Kangofu or Perawat? The Fluid Profession of Nursing in Wartime Java", AAS Annual Meeting 2017(国際学会), 2017年03月16日, Toronto (Canada).
6. Kochi, Kaoru. "From Hollywood Flicks to Eradicating Malaria and Visiting the Doctor: Screening Films in Indonesia during the Japanese Occupation", AAS Annual Meeting 2017(国際学会), 2017年03月16日, Toronto (Canada).
7. Yamamoto, Mayumi, "Bittersweet Flowers in Java: VD and Prostitution during the Transitional Period from Dutch to Japanese Rule", AAS Annual Meeting 2017(国際学会), 2017年03月16日, Toronto (Canada).
8. Horton, William Bradley, "From Shadow Work to the Front Line: Japanese nurses in Indonesia under Japanese military administration", AAS-in-Asia 2016 (国際学会), 2016年06月26日, 同志社大学(京都府・京都市).
9. Yamamoto, Mayumi, "Men, 'Do not Approach the Dangerous!': Japanese Life in Java from Medical Reports and Living Guidebooks", AAS-in-Asia 2016(国際学会), 2016年06月26日, 同志社大学(京都府・京都市).
10. Yamamoto, Mayumi, "Registering Historical Spats: The Politics of UNESCO's Document Registration Program in Asia", Heritage as Aid and Diplomacy(招待講演)(国際学会), 2016年05月26日~28日, Leiden University, Leiden (The Netherlands).
11. Horton, William Bradley, "Meneliti Masa Pendudukan Jepang dengan Menggunakan Sumber Jepang", PDSR-LIPI(招待講演)(国際学会), 2015年09月16日, LIPI, Jakarta (Indonesia).
12. Kochi, Kaoru, "Historical Discourse on the Communist Party of Indonesia after WWII: The Creation and Change of the History of the 1948 Madiun Affair", Association for Asian Studies(国際学会), 2015年03月26~29日, Chicago (United States).
13. Yamazaki, Isao, "Business, Resource Nationalism, and the New Order: Indonesia and Japan between the Pacific War and the September 30 Incident", Association for Asian Studies (国際学会), 2015年03月26~29日, Chicago (United States).
14. Horton, William Bradley, "In the Wake of the Imperial Japanese Armed Forces: Japanese Women Writers in Occupied Southeast Asia, 1942-43", Consolidating Japan's Administration in Malaya and Indonesia: Research, Planning, Propaganda(招待講演)(国際学会), 2015年02月27日, 学習院大学(東京都・豊島区).
15. Horton, William Bradley, "The Women's International War Crimes Tribunal on Japan's Sexual Slavery and The Dominance of Nation-specific Discourse on Sexual Violence", WOJUSS International Workshop(国際学会), 2014年11月27日, 早稲田大学日米研究機構(東京都・新宿区).
16. Yamamoto, Mayumi, "The Unstoppable Pendulum for the Pinnacle of Nationalism: The Political Discourses on Comfort Women", WOJUSS International Workshop(招待講演)(国際学会), 2014年11月27日, 早稲田大学日米研究機構(東京都・新宿区).
17. 後藤乾一「日本のインドネシア占領を考える」日本占領下の南洋(招待講演)、2014年11月16日、立教大学(東京都・豊島区)。
18. Kurasawa, Aiko, "Membicarakan Kembali Pamfisan Perang Jepang", 国立ジャカルタ大学歴史教育センター開所記念セミナー(招待講演)(国際学会), 2014年03月12日, Universitas Negeri Jakarta, Jakarta (Indonesia).
19. 倉沢愛子「9・30事件と華僑・華人の「帰国」反共と結びついて排華の難民として」20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動研究会、2014年01月13日、京都大学(京都府・京都市)。
20. 倉沢愛子「9・30事件と華僑・華人 スケープゴートにされたひとたち」東南アジア学会中部例会、2013年10月12日、南山大学(愛知県・名古屋市)。
21. 倉沢愛子「戦後日本=インドネシア関係史 賠償交渉から反日暴動まで」南山大学アジア・太平洋センター主催講演会(招待講演)、2013年10月11日、南山大学(愛知県・名古屋市)。
22. Yamamoto, Mayumi, "It Used to Be Ordinary but...: The Long Life of an Extraordinary War Widow", International Convention of Asian

Scholars (国際学会), 2013年06月24日, Macau (China).

23. Kurasawa, Aiko, “A Story of War and A Stateless Women”, International Convention of Asian Scholars(国際学会), 2013年06月24日, Macau (China).
24. Horton, William Bradley, “Invisible Southbound Travelers: Working Japanese Women in Wartime Indonesia”, International Convention of Asian Scholars(国際学会), 2013年06月24日, Macau (China).

〔図書〕(計 11 件)

1. 山本まゆみ, ホートン ウィリアム・ブラッドリー 『インドネシア・通信情報関係史料 1940～1948』龍溪書舎、2017、約500頁。
2. 山崎功 『佐賀・九州の南方開拓者たち』海鳥社、2017、102頁。
3. 後藤乾一 「解説」、『ジャワ新聞』第8巻、龍溪書舎、2017、約20頁。
4. 倉沢愛子 「第5章 戦争に翻弄された南方移民 「帝国」の解体の背後で」、『日本帝国の崩壊 人の移動と地域社会』慶応義塾出版会、2017、約20頁。
5. Horton, William Bradley, “Patjar Koenig and the mysterious death of Moh. Hoesni Thamrin: A glimpse into the swirling maelstrom of Indonesia in the early 1940s”, in *Bukit Sama Didaki: A Festschrift in honor of Professor Emeritus James T. Collins, Institute Kajian Etnik*, 2017, 約20頁.
6. Horton, William Bradley, “Mimpi Kemakmuran pada Masa Perang”, in *100 Tahun Balai Pustaka*, Balai Pustaka, 2017, 約15頁.
7. Kurasawa, Aiko. *Masyarakat & Perang Asia Timur Raya*. Komunitas Bambu, 2016, 304 p.
8. 後藤乾一 『近代日本の「南進」と沖縄』岩波書店、2015、288頁。
9. 倉沢愛子 『9・30 世界を震撼させた日インドネシア政変の真相と波紋』岩波書店、2014、242+xii頁。
10. ホートン、ウィリアム・ブラッドリー 「忘れられた南方の旅人たち 日本占領期インドネシアの日本人勤労女性」 『日本と東南アジア さらなる友好関係の構築へ向けて』鳳書房、2014、190(1-9)。
11. Kurasawa, Aiko, “Japanese War Reparations and the Economic Decolonization of Indonesia” in *Japan and Southeast Asia: Continuity and Change in Modern Times*, Ateneo De Manila University, 2014, 233 (149-167).

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

- (1)研究代表者
ホートン ウィリアム. B Horton William. B)
早稲田大学・地域・地域間研究機構・招聘
研究員
研究者番号：00625262
- (2)研究分担者
倉沢 愛子 (Kurasawa Aiko)
慶応義塾大学・経済学部・名誉教授
研究者番号：00203274
- (3)研究分担者
後藤 乾一 (Goto Ken'ichi)
早稲田大学・アジア太平洋研究科・名誉教授
研究者番号：90063750
- (4)研究分担者
山本 まゆみ (Yamamoto Mayumi)
宮城大学・基盤教育群・准教授
研究者番号：60709400
- (5)連携研究者
山崎 功 (Yamazaki Isao)
佐賀大学・芸術地域デザイン学部・教授
研究者番号：60267458
- (7)研究協力者
高地 薫 (Kochi Kaoru)
愛知県立大学・多文化共生研究所・研究員
研究者番号：30345178